

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 26日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学政治学研究科	学年(プログラム開始時):	専門職2
参加プログラム:	SNU	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他( )	<input type="checkbox"/>	

派遣先大学の概要

ソウル大は韓国でNo.1の大学で、Times Higher Educationの世界大学ランキング2016-2017では72位。1895年、李氏朝鮮第26代国王の高宗が発した勅令に基づいて、韓国で最初の近代高等教育機関として法科養成学校が設立されたのが起源とされる。大戦後の1946年に公式にSeoul National Universityとなった。1975年に医学部と農学部を除いて現在の冠岳キャンパスに移転。1987年の民主化を経て2012年に法人化した(ソウル大Webより)。卒業生に第8代国連事務総長の潘基文氏がいる。大学の校章にもある標語は'Veritas Lux Mea'であり、ラテン語で「真理は我が光」という意味。

参加した動機

将来的にはアメリカのロースクールでLL.M.を取得することを予定しているが、これまで海外経験がなかったため、自身のステップアップになればと思い参加した。  
また、日韓の法曹養成制度の比較について興味があった。日本はアメリカからロースクール制度を導入したものの、法学部や予備試験など、法曹のためのルートが複数並立したため、最近ではロースクール進学者が激減し、失敗したといわれている。これに対し、韓国は法学部を廃止してロースクール制度に一本化したことで、このような失敗を避けられたと聞く。日韓は文化や社会制度に共通する点が多いので、比較対象として最適であると考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出書類と提出先が複数あるので、配布されるチェックリストを用いて締切を徒過しないようにした。  
夏休み中に開催されるため、航空券は早めに確保しないと次第に値段が上がっていく。参加が決まったらなるべく早く飛行機をおさえない。仁川空港からソウル大学の寮までは電車またはバスで2時間ほどかかるので、空港到着時刻はあまり遅い時間にならないほうが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

ソウル大学の寮に入るために健康診断書(英文)の提出を求められる。本郷や駒場の保健センターで発行できるが、過去に留学経験がなく予防接種や抗体検査が必要な場合は発行に2週間程度かかることがあるので、参加が決まったら直ちに準備を進めることを強く推奨する。学生証と母子手帳を持参して保健センターへ出向こう。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から指定された付帯海学に加入したが、幸い保険が適用されるような事態には至らなかった。希望者はOSSMAにも加入できるが、SNUプログラムは期間も短いので不要だと感じた。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

研究科に留学許可願を提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEIC890点。日常会話はあまり問題なかったが、ディスカッションは内容が高度だったこともあり難しく感じた。ソウル大生は英語だけでなく日本語も堪能。東大生もハンゲルの発音と簡単な挨拶くらいは勉強しておきたい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

トイレットペーパー、ティッシュ、タオル、石鹸、シャンプー&リンス、ハンガー、スリッパ、歯ブラシ、歯磨き粉、洗濯用洗剤、変換プラグ等は寮にないので持参していくとよい。もっともソウルのコンビニやスーパーで買うことはできる。  
寮にWi-Fiが届かないので、Wi-Fiルーターをグループ内でシェアするとよい。  
辛い韓国料理や冷たいソルビン(かき氷)を食べるので、胃薬や下痢止めがあると良い。他には風邪薬、酔い止めなど。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中に講義を受け、午後は企業や施設を訪問するというのが基本。講義と訪問は内容が関連している。講義の内容は政治・経済・社会で、特に日本又は韓国に焦点を当てたものが多い。前期教養課程の社会科学の基礎科目(政治Ⅰ、経済Ⅰ、社会Ⅰなど)を履修していた方が内容を理解しやすいと思われる。基本的に予習や復習は要らない。授業は一方的な講義がメインだが、グループディスカッションの時間が設けられることもある。質疑応答の時間は毎回設けられる。  
東京・ソウルラウンドそれぞれの最終日にはグループごとのプレゼンテーションがあるが、準備のための時間がプログラム内に十分設けられているわけではないので、プログラム時間外での準備もある程度は必要になる。  
印象に残っているのは韓国で聴いた北朝鮮の経済についての授業で、社会主義の中で市場経済が発生した経緯が面白かった。

②学習・研究面でのアドバイス

周りを見ていると、授業に遅刻したり授業中に寝たりしている人が散見された。プログラムが盛り沢山であることに加え、同じ寮に泊まるため深夜まで飲み会をしてしまう誘因があり、学生としては仕方がない面もあるが、時間を割いて講義を受け持っていたら教授陣に失礼のないようにしたい。  
ソウル大生は東大生に比べ、かなり積極的に質問をしていた。質問をすることそれ自体が目的になってはいけませんが、なるべく問題意識を持って講義に臨むことを推奨する。

③語学面での苦勞・アドバイス等

英語での日常会話は問題なくできても、学問的な話題について討議するとなると、英語力の不足を実感しないではいられなかった。日本語のできるソウル大生に通訳してもらい、意見の交換をすることはできたが、議論の方向性を主導することは難しかった。  
提案や理由付けなどに特化した会話表現集などで勉強しておくべきだったのではないかと思う。

## 生活について

### ①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ソウル大学の寮に宿泊した。仁川空港からはバスで2時間ほどの距離にある。2人部屋で1泊17000ウォン(約1700円)。部屋の中にはシングルベッド、クローゼット、机が2つずつ置かれた部屋と、トイレと洗面台、シャワールームがある。寮内には洗濯室、乾燥室、談話室などがある。徒歩3分ほどの距離にコンビニがある。寮の中にはWi-Fiが届かない。全員が寮に宿泊し、入寮手続は大学を通して行う。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日本よりわずかに涼しく、湿気も少ない。2017年はプログラム中ほとんど雨が降っており、雨具の用意は必須。寮からバスでソウル大学駅やナクソンデ(落星堡)駅に出ればレストランやカラオケ、PCカフェ等がある。寮から講義室までは徒歩10分ほど。バスと電車はツアーカード(韓国版のPASMO・SUICA)で乗車でき、運賃はかなり安い。食事は辛いものが多いがとても美味しく、そのうえ安い。クレジットカードはたいていの店で使える。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ソウルの治安は東京並みに良い。翌日に疲れや眠気が残らないように、12時頃就寝して7時頃起床する生活を心がけた。

### ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃約4万円、寮費2.5万円、参加費3万円。  
ソウル滞在中の交通費・食費・娯楽費は300000ウォン(3万円)程度。

### ⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

希望者には日本学生支援機構から7万円が支給される。プログラムの参加申込みと併せて国際本部に申請書を提出すればよいので、申込みを逃すことはまずないと思われる。

### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

講義と企業・施設訪問は平日の9時から5時頃までなので、夜と週末は余暇がある。自分を含め多くの学生が夜に飲み会を開き、週末は観光に出かけていたようである。それなりに疲れがたまるので、適度に休みをとることもしていた。

## 派遣先大学の環境について

### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面では、キャンパス内を回るバスのアナウンス、一部の標示には韓国語に加えて英語が付されているが、全ての大学の職員に英語が通じるわけではないし、食堂の券売機などは英語に対応していない。学習面では、事前に講義資料が配布される。生活面では、生活必需品がコンビニで揃ううえ、寮も静かで清潔なので、日本とあまり変わらない生活が送れる。精神面でのサポートは特に受けなかったが、何かあればTAの方にすぐ相談できる体制が整っていた。

### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

設備は全体的に新しいものが多く、近代的。図書館は近年寄付金で増設され、広大なCD・DVDの視聴スペースや談話室・自習室などが完備されている。ジムは寮の近くにある。食堂はキャンパス内にいくつかあるが、メニューの多様性に乏しいので、毎日利用していると飽きが出るかもしれない。キャンパス内ではeduroamをはじめ建物ごとにWi-Fiが利用できるが、寮では利用できない。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムは主に日韓関係の政治・経済・社会問題について扱うというもので、講義と企業・施設訪問を通じて日韓関係に対する理解はかなり深まったように感じられる。ソウル大生との雑談の中でも、スマホ依存や学歴格差、飲み会文化など多くの共通点があることを発見した。他方で相違点としては、学生の政治に対する意識が挙げられよう。韓国では民衆のデモに参加することが学生の義務だと考えられているようであるが、日本ではそのような考え方は珍しい。

日韓には歴史問題や領土問題があるが、韓国について学ぶことで、日韓の見解のズレがどこに起因しているのかをより正確に分析できるようになった。自分の主張をするには相手の立場を踏まえなければ説得的にはなり得ないが、相手の立場で物事を考えるにはまず相手のことを知らなければならない。このプログラムは将来両国のリーダーになり得る人材に多角的な物事の見方を提供してくれる有意義なものだと感じた。

### ②参加後の予定

語学については、5年後のアメリカ留学に向けて英語の勉強を続ける予定である。  
韓国について学ぶことで得た相対的視点を他国にも応用して、視野を広げていきたい。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ソウル大生は東大生と多くの問題意識や文化を共有しており、また日本語も堪能なので、留学の障壁となり得る文化・言語の壁がそれほどなく、いずれ長期留学をしたいが何となく不安だという方も気軽に参加できるプログラムになっている。

20日間のプログラムは長いようにも思われるが、始まってしまえばあっという間。グループに分かれて行動するので、友達ができずに窮屈な思いをするということもない。とても楽しく実りのあるプログラムなので、ぜひ参加を勧めたい。

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

【Wi-Fiレンタル】[https://www.konest.com/contents/phone\\_top.html](https://www.konest.com/contents/phone_top.html)

【礼儀・作法】<http://www.asia-tourist.info/korea/cuntory/manners/manners01.html>

【観光】『るるぶ情報版 韓国'18』JTBパブリッシング

【韓国語】チョ・ヒチョル『1時間でハングルが読めるようになる本』・李清一『ひとりで学べる韓国語会話』

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

ソウル大学の正門。국립 서울 대학교(国立ソウル大学)の頭文字 '국', '서', '대' から成り、真理へ到達するための鍵をかたどっている。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 08月 31日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: 経営コンサルティング)		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ソウル大学は韓国トップの総合大学であり、2016年発表のUS News&Reportの大学ランキングでは世界113位にランキングしている。ソウル大学は16の単科大学(英名ではcollege)から成っており、美術大学や音楽大学を含むなども含む。

参加した動機

大学4年時の夏という最後の機会を、よりグローバルな幅広い視野を身につける時間にしたかったため。また、海外大学の学生とさまざまなトピックでディスカッション・グループワークをすることで自分の知見を広げ、多様性を受け入れる土台を培いたかった。与えられた選択肢の中で最も期間が長く、より学習できるものが多いと感じられたためこのプログラムを選択した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

応募申請についてはインストラクション通りに行えば良いし、作業量もそれほど多くないので問題はないと思う。TOEFL等のスコア提出も必須ではないが、あるに越したことはないので受けていない人は早めから対策してあらかじめ受験しておくといい。採択後の提出資料等も長期留学の際と比較すると圧倒的に準備が楽。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

韓国なので、日本人学生であれば特に必要ない。自分の場合は国籍が中国だったため韓国大使館まで行きビザを申請したが、必要書類も少なく三日後にはビザが降りた。外国籍学生であっても参加は問題ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

ソウル大学の寮に入るためにHealth Inspectionが必要で、麻疹、風疹、おたふくの予防接種を接種済みである旨を示す健康診断書を発行する必要がある。それも向こうが指示するフォームに記入せねばならず、それが学生に伝わるのが極めて遅い。結果として東大のトラベルクリニックでの予約を取ることも一苦勞で、実際のプログラム中に部分的に抜けて接種しなければいけないなど尋常でなく面倒くさい。大学側にも改善を強く求める。自分のケースでは一般の病院に行かざるをえなくなり(東大の保健所と比べて圧倒的に高額での治療となる)、2万5千円程度払って出発3日前にギリギリ診断書を作成できた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

基本的に国際交流課が全て手配してくれるので、指定された口座に指定された金額を振り込むだけで良い。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
応募申請の際に所属学科の担当者のサインが必要。確認程度なのですぐに終わる。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
全くなし。一部韓国語を事前に積極的に予習していた学生もいた。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
大学の寮に入居するのだが、アメニティは全くないので石鹸やボディソープ等生活に必要なと思われるものは全て持っていきべき。ちなみにトイレトペーパーもない(現地で購入可能)。サンダル及び変換プラグは必ず持参すべき。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
ソウル大学と本学の学生が集まり、「世界の中の日本と韓国」をテーマに、それぞれの国の政治、経済、文化、社会などを幅広く理解することを目的とする。東京で10日間、ソウルで10日間という2回のセッションにて5組の講義とフィールドトリップなどを通じて見識を広げつつ、両校の学生が混成グループを作り、最終的に成果を報告する。基本は英語だが、フィールドトリップの際にはそれぞれの母語を使う場合がある(その際には通訳がつく)。基本的には午前には各大学にて講義があり、午後は講義に関連した企業及び団体等にフィールドワークをしに行く。また、各セッション中に一度学生間でのディスカッション、また各セッション最終日までにあるトピックについてプレゼンテーションを準備して発表する。
②学習・研究面でのアドバイス
トピックのテーマには日韓の政治動向や歴史的背景を多分に含むので、事前に深く学習してから望む方が時間を有効活用できると思う。韓国という国の成り立ちや日韓関係の動向、両政府の近年のスタンス等は把握しておく必要がある。
③語学面での苦労・アドバイス等
プログラムの公用語は英語でありソウル大学の学生は皆英語に堪能なので、英語でディスカッションや自分の伝えたいことが十分に発言できるくらいのレベルまで語学力を高めるべき。韓国語は喋れなくても問題ないが、観光の際には市内では全く英語が通じないので喋れる方が楽しめると思う。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ソウル大学の学生寮に入居する。アメニティは全くないので、シャンプーやドライヤー等の生活必需品は持参すること。トイレトペーパーすらもないが、寮のすぐそばにコンビニがありそこで入手可能。二人一部屋となる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は日本とほぼ同じだが、日本特有のジメジメした湿度ではなくカラッとしているので生活しやすい。一方、大学は丘の上にあるため夜は少し冷え込むこともある。一枚程度上に羽織れるものを持参すると良い。基本的に韓国はクレジットカードが使える場所が多いため、無理に現金をたくさん持ってくるの必要はない。食事は人によって合う合わないが多いと思うので、念のため胃腸薬を持ってくることをオススメする。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良い。特に心配することはない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃3万、プログラム費用3万、交通費5千円(空港から市内への往復を含む)、宿代1万5千円、食費2万、娯楽費5千円(人による)。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学支給の奨学金7万円。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
市内観光。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
しっかりしている。プログラムのTAさんは特に懇切丁寧に面倒を見てくれる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館等を本学の学生が使うことはない。食堂はたくさんあり、コンビニも寮の付近にあるため生活がしやすい環境。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
韓国の学生の能力の高さ及び意識の高さを痛感できたことが最大の学びである。韓国は日本と比にならないほどの受験・就職競争があり、それに対する学生の危機感の強さとそれから生じる努力量は日本人のそれと比較にならない。彼らの英語力は当然のこと、ものごとを考え抜く力や自分の意見をしっかりと表現する力は見習う必要があると強く感じた。また、プログラムが非常に密なため日韓問題の事実を詳細に知れただけでなく両国の認識や意見の違いの原因もうっすらとではあるが理解できたように感じる。違いや多様性への需要のキャパシティは大きく広がったと思う。
②参加後の予定
このプログラムと直接関連するものはない。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
この短期サマープログラムは留学への敷居が高すぎるように感じる学生であっても参加がしやすいものの一つであり、一方でそうしたプログラム群の中では最も密に学習ができますと思います。日本という狭いガラパゴスを抜け出し自分の殻を破りたい学生には参加を推奨します。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 31日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	2017 SUMMER Seoul National University - University of Tokyo	派遣先大学:	Seoul National University
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他( )	<input type="checkbox"/>	

派遣先大学の概要

東京ラウンドのみの参加ですが、ソウル国立大学とのジョイントプログラムに参加しました。ソウル国立大学は、韓国における国立大学の最高峰で、日本における東京大学のような立ち位置の大学です。16の学部と、9分野の大学院に70余りの修士・博士課程をもつ規模の大きな総合大学です。

参加した動機

参加した動機は、1年次にとっていた平和構築論の授業で紹介されたミャンマー研修旅行を通じてアジアへの興味が高まったことです。3年次には中国の政治経済について考えるゼミに入りました。日本にとってとても重要な隣国である、韓国のことについてあまり知らないということもあり、サマープログラムに参加することに決めました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムの参加にあたっては、アプリケーションの書類と奨学金の申請書を書く必要があります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私は東京ラウンドのみの参加なので、ビザは取得していません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私は東京ラウンドのみの参加なので、特に医療関係の準備はしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

私は東京ラウンドのみの参加なので、特に保険関係の準備はしていません。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラムの参加手続きは、アプリケーションの書類と奨学金の書類と成績証明書と英語能力の証明書を法学部の教務係に提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS7.0で、その証明の書類のコピーを提出しました。
⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
私は東京ラウンドのみの参加だったので、出発前のアドバイスはありません。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
東京大学から20人、ソウル大学から20人程度が集まり、全部で5つのグループに分かれていました。午前中に日韓の人文、社会科学に関する授業を英語で受け、質疑応答ののちに午後はその講義内容に関係したフィールドワークに向かうというスタイルでした。質疑応答以外のディスカッション、フィールドワークは基本的にグループ活動でした。
②学習・研究面でのアドバイス
質疑応答が大変有意義な場となっていました。ソウル大学の学生の方が活発に質問を行っていたという印象があったので、積極的に質問をしていく姿勢が大切であると思います。
③語学面での苦勞・アドバイス等
ソウル大学の学生は、事前に日本語を学ぶプログラムに参加していて、大変日本語能力に優れていました。日常的なコミュニケーションで日本語を使うことがあり、英語の上達はなかなか難しいかと思いきや、授業でも英語が中心だったので心配はいりませんでした。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
東京ラウンドのみの参加だったので、宿泊先はわかりません。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
東京ラウンドのみの参加だったので、韓国の生活環境はわかりません。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
東京ラウンドのみの参加だったので、留学先のことはわかりません。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
東京ラウンドのみの参加だと、プログラム参加費は三万円ほどでした。そのほか、留学生といろいろなところに行ったりしたので食費は普段よりはかかりました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
受給していません。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末にはソウル大学の学生と東京大学の学生と花火大会に行ったり、出かけたりしました。日本の紹介をしました。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
東京ラウンドのみの参加だったのでわかりません。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
東京ラウンドのみの参加だったのでわかりませんが、ソウル大学は広大な敷地を持つという話は聞きました。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
普段なかなか交流することのない韓国の学生と密に交流することができるとても良い機会だったと思います。また、歴史問題やさまざまな問題についてともに勉強して討論することで、生の意見を聞くことができました。短期プログラムへの参加は、さらに長期の留学に参加してみようという意欲がわくきっかけになりました。
②参加後の予定
より長い留学プログラムに参加してみたいと思います。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
見識が広がること間違いなしなので、いきなりの長期留学は不安と考えている人にもおすすめです。
<b>その他</b>
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にありません。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月1日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	SNU-UTサマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: IT)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

韓国No.1の大学であり、芸術や衣装などを含む様々な学部が存在。山に立地し、広大なキャンパスも特徴。

参加した動機

日本と関わりの深い東アジア諸国の理解促進、先入観のない東アジア像の構築。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

学内書類選考のためのエッセイ執筆。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

寮に提出する英文健康診断書の発行に時間がかかった。同年度の学内の健康診断を受診しておき、学内で安く発行するのがポイント。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学指定の海外旅行損害保険加入

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
なし。韓国語を少しでも勉強していくと楽しいかも。自分はプログラム中にハングルが読めるようになりました。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
韓国語の勉強。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前中講義、午後フィールドワークという内容。土日は自由で、観光などができる。
②学習・研究面でのアドバイス
特に予習は求められないものの、講義内容に関する基本的な知識や理解があるとスムーズに講義を理解できるのだろうと感じた。
③語学面での苦労・アドバイス等
ソウル大の学生たちの日本語レベルが高く、ほとんど日本語で会話をしていた。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
二人一部屋。部屋はきれいで不満はなかった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
今年度は日韓ともに雨が多かった。鉄道、バス、タクシーといった韓国の交通機関は安い。基本的にクレジットカードがどこでも使える。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
集団で行動していたこともあり、治安は問題なかった。20日間という長いスケジュールのために体調を崩す人が何人かいた様子。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券3万弱、寮代2.5万円、プログラム参加費3万円、その他食費娯楽費2.5万円。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO奨学金7万円。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

土日は韓国学生と観光。

### 派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特になし。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館を利用できる一時的なIDカードをもらえる、寮にwifiがないのが困った。

### プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ネットにあふれている真偽のわからない情報ではなく、生の友達との実際の交流に基づいて自分の考えを持つべきだと強く思いました。このプログラムを経て、韓国に対する私の印象はとてもポジティブなものとなりました。

②参加後の予定

韓国語を勉強したいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

絶対に参加すべき、特に学年の若い学生はぜひ。大学内外の友達ができ、その後の大学生生活が有意義なものとなると思います。

### その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 25日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	SNU-U-Tokyo Joint Summer Program	派遣先大学:	Seoul National University
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 未定 )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

言わずと知れた、韓国の国立大学校です。  
 "A Tradition of Excellence. Honoring Public Service. Pioneering Knowledge."  
 がSNUスピリットであると公式HPに書いてありましたが、まさに今までもこれからも韓国を引っ張る存在として、重要な大学です。

参加した動機

もともと色々な視点を身につけることを目標に大学生活を送っていたのですが、  
 その中で、国内で生きているだけではどうしてもドメスティックな視野しか身につかないのでは、と思いました。  
 そこで海外に行こうと思ったのですが、欧米の人と過ごすともう文化や社会が違うのは経験していたため、  
 文化や社会に共通点が多いけれど少し違う韓国で(これは国内での学習で気づいた)、  
 この"少し"違うのが何か、というのを探りにいこうと思い、出願しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

その一、渡航、帰国する日と時間を決めたら即刻航空券を取ること。航空券は刻一刻と、無慈悲に値上がりしていきます。某筆者は、2つの便で迷っていたところ、その間にさりげなく8000円値上がりしているなんていう惨状を目の当たりにしました。迷いは禁物です。  
 その二、年度初めの学生定期健康診断を受けましょう!!  
 不届き者の私はこれを受けていなかったがために、8月の暑い中、都心のクリニックをはしごする羽目になりました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし。日本に生まれて良かったですね。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

これは多くの方が書かれると思いますが、寮に入るために健康診断書が必要です。この健康診断書は、駒場のトラベルクリニックでも書いてもらえます。しかし、皆考えることは同じです。テストが終わった8月に予約が殺到します。なので、自分が思っているより早くトラベルクリニックに行くことを強くオススメします。なおトラベルクリニックには、「定期健診を受けた方のみ対応します」という規定があり、それに直前で気づいた時の絶望は計り知れないので、定期健診は絶対受けておきましょう。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学が提供して下さる保険に入ることになります。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
一応、気合を入れて、Sセメで開講されていた朝鮮語初級(第三外国語)を履修した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ソウルの旅行本は持って行った方がよい。Wifiについて、僕以外多分全員レンタルのポケットwifiかSIMを買っていたようだったが、僕は公共のwifiとeduroamで気合で乗り切りました。少なくとも大学構内と駅ではいずれかのwifiが飛んでいるので、それ以外の場所で使いたい、または各所でいちいちwifiを探したり繋いだりするの面倒くさいという方は、wifiを借りた方やSIMを買った方のレビューを参考にしてください。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
朝は授業、午後はそれに関するフィールドトリップという仕様を、東京とソウルで繰り返します。授業では、日本政治や経済、またジェンダーや在日朝鮮人のことなど、果てはオタクカルチャーまで、幅広い分野を扱います。ここでは多くを語りませんが、ソウル大学の学生の反応や授業を受けるスタイルなども含め、なかなか興味深かったです。
②学習・研究面でのアドバイス
とにかく好奇心を持つことが大事です。このプログラムで何を得るかが大きく変わってきます。
③語学面での苦勞・アドバイス等
正直オールイングリッシュでの授業を舐めていました。3時間です。東大の1限と2限をオールイングリッシュで受ける感覚です。必要だと感じた方は、プログラムのために少しは英語の準備もした方が良いでしょう。韓国語に関しては、まずハングルを読めないと日常生活はキツイです。割合すぐ習得できるので、頑張りましょう。それ以上は、話せれば楽しいね、レベルです。 あと、これは割と大事ですが、「ソウル大生は基本日本語が喋れます」。気を抜くと何故かオールジャパニーズのプログラムになっているので、公用語を英語にする努力をしてください。向こうが日本語を使っても、意地でも英語で喋りましょう。
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
とても快適。言うことなし。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
T money カードは向こうに着いたらすぐ買いましょう。コンビニでもどこでも売っています。交通機関については、韓国の地下鉄のアプリをスマホに入れておくと非常に便利です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安については、日本と同レベルくらいではないでしょうか。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券、約5万円。プログラム費3万円。宿泊費2万円弱。その他韓国で3万5千円程度。計、13万5千円程度。向こうには5万円持っていけばまあ足りるでしょう。換金はすこしづつしましょう。(大学構内で1千円単位でやってくれます。しかもレート良し。)
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
7万円。Jassoより支給。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
これはグループの運次第でもありますが、休日や放課後に、ソウル大の学生に韓国の色々なところへ連れて行ってもらえます。僕もそれなりに色々連れて行ってもらいました。とても楽しかったです。強いて言うなら、東京ラウンドの時にこちらが向こうの学生に色々なところに連れて行っておくと、向こうでもそうしてくれる可能性が高まります。(ただし、必ずしもそうとは限りません。)
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
TAさんや先生、国際交流課の方がとても良くしてくれたので特に困らなかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
積極的に活用していきましょう。特に、図書館の自習室は一見の価値あり。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
意義はとても高かったと認識している。当初の目的であった“少し”の違いについて、自分が事前に抱いていたものとは異なって、色々なものが見えてきた。これは、ある意味体的なものであって、言語化するのには難しいが、確実に僕の新たな視点として身についた。 また、約1ヶ月という長い時間、ソウル大生と過ごす中で、同じ時代をそれぞれの国で生きる者同士、プライベートな思いなどもぶつけあった。これも本当にかげがえのない経験として、僕の中に残っている。 また、東大の学生同士の交流も盛んで、色々な経験などの話を聞けて、これも、プログラム前は想定していなかったが、僕の貴重な財産になった。これからも、今回得た出会いを大切にしていきたい。
②参加後の予定
再度の留学は検討中である。ただし後期課程に進んだ後は、自分の専門の学問を東大ではできない形で深めてくれる留学をしたい。中々難しそうである。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

見たあとには飛んでください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 7日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	ソウル大学—東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 未定)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ソウル大学のメインキャンパスである冠岳キャンパスは、ソウル特別市のほぼ南端に位置する冠岳山の中腹に、広大な土地を持っています。山の斜面にあるため、大学内の他の場所へ行くにも、駅のある市街地に出るにも、坂を上ったり下ったりしなければなりません。通常の有料バスや無料のシャトルバスが充実しており、タクシーも安いため、それらを使いこなせば移動に困ることはありません。

参加した動機

韓国には一度旅行で行ったことがあり、その時から韓国という国に興味を持ち始めました。日本で一般的に言われる韓国に対する見方は偏見や固定観念に満ち溢れているので、実際の韓国人たちはどのようなことを考えているのかを知りたいと思い、このプログラムを希望しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申込み締め切り日の直前にプログラムの存在を知ったので、手続きが非常に忙しくなっていました。説明会などは早い時期にあるので、その段階から準備していれば時間は十分にあると思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの申請は不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

滞在するソウル大学の寮に健康診断書を事前に提出する必要があったのですが、接種回数が不足しているワクチンを摂取する必要がある場合があり、その場合はかなり面倒です。予約が取れる時間が限られていたり、何度も手続きが必要だったりして、東京ラウンドを一部欠席して摂取しなければならない人が続出しました。私もその一人でした。東京ラウンドの直前まで試験期間であったこともこの現象の要因の一つと考えられます。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は指定の付帯海学に加入しました。それとは別にオプションのOSSMAも利用しましたが、これの有用性については多少疑問です。

<p>⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)</p>
<p>履修という形ではなく、単位も付与されないの、所属学部への提出書類は本来の様式から一部省いた形での提出で足りました。</p>
<p>⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)</p>
<p>英語については、TOEICやTOEFLのような試験の成績は所持していませんでした。一年間英語の科目を履修していなかったこともあり、英語レベルは低かったです。韓国語は、以前の旅行で文字は読めるようになっていました。ソウルラウンド前に文法書を買って、少しだけ勉強しました。</p>
<p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど</p>
<p>ハングルを読めるだけで生きやすさが全然違うと思います。日本語と似た音の語も多いので、読めるだけでも得られる情報量はぐんと広がります。文字には規則性があるので1日で覚えることも可能です。日用品は現地のスーパーやダイソーで安く買えるので、必ずしも何でも持って行く必要はないかなと思います。サンダルは持って行けると便利かもしれません。</p>
<p><b>学習・研究について</b></p>
<p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)</p>
<p>午前中に教室で講義を受けて、午後はフィールドトリップというのが基本スタイルです。授業のスライドははじめにまとめて紙のテキストとして配られたほか、Dropboxにもアップロードされました。予習や復習で課題が課されることはなく、東京ラウンドの最後にグループプレゼンテーションがあったほか、ソウルラウンドでは自分たちでテーマを考えて話し合うディスカッションがありました。講義については、背景知識が乏しい分野を英語で学ぶのは私にとってはハードルが高かったです。</p>
<p>②学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>好奇心を持つことが大事だと思います。韓国について知りたいと思う気持ちが強ければ、相手の好感度も上がりますし、色々なことを聞き出せます。ソウル大学の学生は全体的に積極性が高いと感じました。講義でもフィールドトリップでも東大生はあまり質問しないのに対し、ソウル大生からは次々と質問が飛び出していました。また、机の前に座ってすることだけが勉強ではありません。夜や休日は休むことも大事ですが、できる限り街に出て、実際の韓国の街を見て歩く、雰囲気を感じる、韓国人と接する、それらも大切な学びのうちだと思います。</p>
<p>③語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>英語試験の成績が必要ではないプログラムとはいえ、講義やディスカッションは英語で行われるので、やはりそれなりに英語力がないと苦勞します。韓国語はできる必要はないですが、ハングルは最低限読めるようにしておくことQOLが上がります。</p>
<p><b>生活について</b></p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学のキャンパス内の寄宿舎(冠岳舎)でした。自分の部屋にはトイレトペーパーや冷蔵庫がなかったのですが、他の部屋にはあった場合もあったので、部屋によって当たり外れがありました。冷房やシャワーは不足なく、部屋はきれいで過ごしやすかったです。湯船に浸かりたくなるときはソウル大入口駅付近の銭湯に行きました。寄宿舎の敷地内にコンビニや食堂・カフェ等があり、便利です。洗濯は無料でできました。</p>

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

雨が降らなかった日は1日しかなかったと思います。今年が異常だっただけだとは思いますが、とにかく天候には恵まれませんでした。したがって、予想していたほど暑くなかったです。大学が山の中にあり、標高が高いことも気温に影響しているかと思います。ソウル大学にはソウル大入口駅とナクソnde駅という2つの最寄り駅があり、状況によって使い分けていましたが、寮の前にあるバス停がナクソnde駅行きなので、ナクソnde駅を主に利用しました。地下鉄は全線同一の料金体系になっており、バスもそれに組み込まれているので、非常に分かりやすく、料金も格安でした。Tmoneyという交通ICカードにチャージして利用しましたが、地下鉄やバスを頻繁に利用していたにもかかわらず、なかなか残高が減りませんでした。ハングルを読めるならば、ネイバー地図というアプリを利用するとバスの停留所の位置や路線図、バスの現在の走行位置などがわかり、地下鉄の乗換案内にもなるので、非常におすすめです。食事は、朝食と昼食は大学内の食堂やコンビニ、夕食は街に出かけて韓国料理店というサイクルでした。大学の食堂についてはこれまた専用のアプリがあり、食堂ごとの日替わりメニューが閲覧できるので、そのメニューを見て「今日はここへ行こう」と考えられるのは面白かったです。現金はなるべく使用せず、カードを使用しました。クレジットが不安であればデビットカードでも全然問題ありません。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良いです。北朝鮮関係での不安もありましたが、それによって現に危険が生じているということはありませんでした。なまものには念のため気を付けた方がよいということで、ユッケは食べませんでした。ただ、水も食べ物も清潔ですし、食中毒の危険性は低いので、過度に不安になる必要はないと思います。あと、おいしいものが多いので、確実に太ります。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃約4万、プログラム費約3万、食費及び交通費約3万、宿泊費約2万といった具合です。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

大学の寮内にジムがあったのですが、1か月3万ウォンという単位でしか契約できなかったのを断念しました。週末はソウル駅、景福宮、北村、仁川等を観光しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特に手厚いサポートがあるわけでもなく、かといって特に不足を感じることもなく、良い意味で自由だったと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学の図書館の入館証はもらいましたが、なぜかそれだけでは入館できないようで、ソウル大生と一緒に行ってなんとか入館できました。館内は非常に広く、学習スペースがとても充実しています。他に人文学部の学習スペースのようなところにも行きましたが、そこも非常に快適な空間でした。あの環境ならば学生が自習場所確保に奔走する必要もありませんし、勉強がすこぶる捗ると思います。うらやましい限りです。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラム以前に概念として学んできた韓国及び日韓関係というのは、全く実情を反映していなかったのだということはこのプログラムを通じて感じました。両国の関係を良好化するために実際問題何が必要か、それをより実践的に考えるきっかけになったと思います。また、今まで自分が見てきた世界がいかに狭いものであったかを痛感しました。ここでの学びを活かしてさらなる活動に取り組んで行くことができれば幸いです。

### ②参加後の予定

これまで進路について考えることが行き詰っていましたが、このプログラムを通じて視野が広がったので、再び進路を考えるうえで良いきっかけになったと思います。進路は未定ですが、様々な可能性を模索してみたいと思います。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私たち日本人は韓国について知らないことが多いですが、その「知らないこと」には「知るべきこと」や、「容易に知ることができるのに無視されていること」が沢山含まれています。日韓の両国民間に生じている齟齬は、それらを多くの人知らないこと、またそれらを知ることを阻む壁が存在していることが原因となっているのだということを、韓国学生との交流で実感し、そしてこの問題を解決していくための手立てを考えるきっかけにできれば良いと思います。

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ガイドブックは「地球の歩き方(ソウル)」に限ると思います。スマートフォンのアプリでは前述の「Naver Map(네이버 지도)」が地図や乗換案内として便利です。

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月7日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

1946年に開設された、韓国随一の名門大学。大半の学部が所在する冠岳キャンパスは広大な敷地面積を誇り、設備も最新鋭のものを揃えている。キャンパスがあまりに広いために、バスがキャンパス内の移動手段として用いられている。

参加した動機

韓国の政治・歴史・文化にかねてから関心があり、それらに関する講義を優秀な教授陣から英語で受けられるため。奨学金をいただけることも魅力的だった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出書類が多いため、計画的に書類の作成を進める必要がある。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請は行わなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

2年前に米国に行った際、予防接種を全て済ませていたため、レントゲン写真(結核に罹患していないことを示すため)を撮るだけで良かった。薬については、胃腸薬を準備した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学の指定した保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラムが大学の夏季休業中に行われたため、手続きは行わなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特になし。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

週末は自由時間となるので、観光のために旅行ガイドブックを持参すると良いかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

合計20日間のプログラムで、前半の東京ラウンドと後半のソウルラウンドに分かれている。午前中は東大或いはソウル大の教員から講義を受け、午後はフィールドワークを行う。普段行けないような政府機関を見学することができ、大変貴重な経験が出来たと思う。週末は自由時間となるため、観光をする人が多い。

②学習・研究面でのアドバイス

韓国人学生は講義中に熱心に質問するため最初は戸惑うかもしれないが、気後れせずにこちらも積極的に質問すると良いと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

韓国語が全く話せないことを不安に思っていたが、プログラムは全て英語で行われたため全く問題はなかった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ソウル大学の2人部屋の寮に泊めさせていただいた。10泊して、料金は約17000円だった。トイレとシャワールームが各室に備わっており、快適に過ごすことができた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

残念ながら滞在中は雨天の日が多かった。寮の近くにコンビニがあり、パンやヨーグルトを購入してそれらを朝食とした。昼食は基本的に大学内の学食で済まし、夕食は大学外のレストランで韓国人学生と食べるが多かった。交通機関としては、基本的にバスと地下鉄を用いた。ただ、韓国では日本よりもタクシー料金がかなり安価なため、タクシーもしばしば用いた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は極めて良好で、何ら心配はいらなかった。疲れを取るためになるべく早く寝るように努めた。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

要した費用は約12万円。内訳は航空賃が約3万円、プログラム料金が3万円、宿泊費が約1万7000円、東京ラウンドとソウルラウンドを合わせた食費・交通費・娯楽費が約5万円。但し、奨学金が7万円支給されたため、実質費用は約5万円。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構の支給する奨学金7万円を受給した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末など自由時間には精力的に観光をした。ソウル市内に所在するいくつかの宮殿や国王の陵墓などを個人的に見学したほか、水原に住む韓国人学生に同地を案内してもらったりした。

**派遣先大学の環境について**

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

東大・ソウル大双方から選ばれた大学院生のTAが終日面倒を見てくれたため、サポート体制は万全だった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

講義室や図書館など、どれを取っても学習環境は最高だった。大学内の食堂で提供されていた食事は総じて美味しかった。

**プログラムを振り返って**

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

講義やフィールドワークを通して韓国に対する理解が深まったことに加え、英語力やコミュニケーション能力、異文化適応能力が高まったことが、本プログラムに参加したことによる最大の成果だと思われる。また、韓国人学生と生涯に渡るであろう強い友情関係を築けたことが、本プログラムに参加した最大の喜びである。

②参加後の予定

本プログラムを通して韓国に対する関心が膨らんだため、韓国の大学のウィンタースクールに個人的に参加することを検討している。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

大変充実したプログラムなので、是非応募してみてください！

**その他**

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方 D12 韓国 2018年版

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9 月 7 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	ソウル大学-東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ソウルにある大韓民国の国立大学であり、16の学部と9分野の大学院、70余りの修士博士課程を持つ総合大学。

参加した動機

自分の語学能力を向上させたかったことが第一目的。また、海外の同世代の学生との交流をする中で、自分とは異なるバックグラウンドの人物が世界、情勢についてどう捉えているのかを学ぶことは、次世代の課題発見、解決の方法を模索する中で重要であると考えた。さらに日韓関係は近年悪化しているが、近現代史を学ぶ中で日韓関係に興味を持ったので、学んでみたいと思った。

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学プログラムの情報などは、自分から見つけに行くことが重要であるので、積極的にグローバル駒場のホームページなどをチェックするのが良いです

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザについては今回は問題になりませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断や必要な予防接種の準備は、病院にとっても時間を要するので、なるべく早くの対応が必要、大学のトラベルクリニックが対応してくれるので、活用すると良いです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学研災付帯海外留学保険に加入しました

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験などの日程の重なりを教務部で確認しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEIC800点強と英語レベルは非常に低かったため、英語ラジオを聴いて語学力向上を図りました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

韓国はとにかくクレジットカード社会なので、カードの準備は必須だと思います。

## 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

事前に配られたスライドを読み、それに沿った教授の授業をプログラム中の毎午前中に受け、午後にはその講義と関係したフィールドワーク(大使館訪問や、在日の方のお話を伺うなど)を行いました。瀬地山教授の日韓の労働環境と女性参画についての講義が、共に女性の労働環境において近似の問題を抱える両国について学ぶことができ、印象的でした。

②学習・研究面でのアドバイス

特に韓国滞在中、韓国の政党などについての講義を英語で受講するのは困難であったため、日本語で基礎知識を持っておくのと良いと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

SNUの生徒が日本語が達者であったため、不自由を感じることはありませんでしたが、韓国語を学んでいけばよかったと思いました。ハングルの発音は現地で習得しました。

## 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮は快適でした。洗濯機も無料で使えよかったです。ただWi-Fi環境が整っていなかったため不便でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

公共交通機関やタクシーが非常に低価格でとても便利でした。お金は基本クレジットカードを使用していました。韓国はクレジットカード社会なので、飲み会での割り勘にも使え、便利でした。食事はとにかく辛かったです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安に関しては特に不安はなかったのですが、渡航先であることを念頭に普段よりも貴重品管理に気をつけていました。健康管理は生ものを食べないことなどを意識しました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム代、飛行機代を除いて大体6-7万ほど準備しました。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金がプログラムの要項に記載されていたため、7万円を申請しました。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
現地では毎晩SNUの生徒に観光に連れて行ってもらったり、夕食会に参加したりしました。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
基本プログラムの中での行動であったため、そこまで実感しませんでした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
非常に整備されていて、広大な敷地もあり、環境は素晴らしかったです。食堂も多数あり、図書館は広く綺麗で、オンドルや映画観賞用ブースが多数設置されているのが印象的でした。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
まず、韓国人学生たちの政治や世界情勢についての関心、知識の深さに衝撃を受けました。自分自身、政治情勢は新聞などを通して追っているつもりでしたが、彼らは自分なりの意見を持ち、それを他人に発信しており、とても刺激的でした。また私は英語力が低く、自分の意見を発信することに抵抗感があったため、それを改善すべく参加しましたが、フィールドワークで企業や政党の方に質問をしたり自分なりに成長できたかなと思っています。
②参加後の予定
より長期のプログラムや全学交換留学を検討しています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

異なるバックグラウンドを持つ同年代の学生との交流は非常に刺激になります。たくさんの学びを得られるので是非参加してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に参照していません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 6日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	SNU-UT Joint Summer Program	派遣先大学:	Seoul National University
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ソウル大学は韓国の中でトップの大学で学生のレベルもかなり高い。大学自体もかなり大きい。

参加した動機

このプログラム参加以前は海外に行ったことがなく外国人と交流したこともあまりなかったので、異なる文化で生活し外国人と交流するという経験をしてみたいと思いこのプログラムに参加した。なので、韓国に対して特別な動機はなかった。

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きについては国際本部から送られてくるメールをしっかりと細部まで読んでおけばスムーズに完了できる。しかし、ソウル大学の寮に入るための健康診断書の提出を知らされたのがかなり遅く、多くの参加者が健康診断書の作成に手間取っていた。なので、参加が決まったら早めに診断書が必要かを確認し用意することを勧める。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

不要

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断書作成のための必須な予防接種は麻疹、風疹、おたふくなど。腹痛を訴える参加者が多かったので、腹痛に効く薬を持って行くと良いかもしれない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラムで指定された保険に入る。必要な書類と提出期限を指定されるのでそれに従っていけば入れる。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
自分は英語があまり得意ではなかったが、ソウル大生の英語のレベルはかなり高かったのでとても苦労した。なので、英語能力に不安がある人はできるだけの準備をした方が良いと思う。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
クレジットカードが多くの場所で使えるが複数人でご飯に行く機会が多く現金もそれなりに持って行く方が良い。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
基本的な形は午前には講義を聞き、午後はその講義に関連するような場所をフィールドトリップとして訪問するというものだった。講義はまず教授の話聞き、そのあとに質問の時間が設けられていた。多くの学生が、特にソウル大生は積極的に質問していた。授業のスライドがあらかじめDropboxにアップされ予習するように言われていたが、ほとんどの学生は予習はしていなかったと思われる。講義の内容としては、日韓の政治体制や社会問題(高齢化社会や女性の労働力)さらに在日問題や北朝鮮問題など。フィールドトリップは、必ずしも講義の内容と重なっているわけではなく、日韓関係に関する様々な場所を訪問した。企業や大使館、在日韓国人に関する博物館、北朝鮮との国境など。週末は自由なので、ソウル大生を含むグループの人たちと観光をした。
②学習・研究面でのアドバイス
このプログラムの参加者の選考において、多様性を重視して様々な専攻や学年の人を集めたらしく、その点はとても良いと思った。しかし、講義の内容などは政治や社会問題などが多くそれらにそこまで興味のない理系学生には少し講義が苦しいかもしれない。逆に新しい分野に触れる良い機会であるとも言える。
③語学面での苦労・アドバイス等
ソウル大生の英語力がとても高く、個人的にそのギャップにとっても苦労した。逆に自分の語学力をもっと向上させる動機付けにはなったと思われる。また、ソウル大生の多くが日本語を流暢に話すことができたので、普段の会話は日本語と英語の両方を使うことになった。ディスカッションの際にはソウル大生に日本語を話せる人がいたことが助けになったことも多かった。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
宿泊した寮はとても綺麗であったがWi-Fiが使える場所と使えない場所があったりしたので、何人かで共有してWi-Fiを借りて行くことが得策だと思われる。寮の近くにレストランも多くありとても便利であった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候はそこまで日本と変わらないが、少し寒くなることもあるので夏でも上着を持って行くと良い。交通機関については、日本よりもバスを良く使う。バスも電車もタクシーも日本に比べるととても安い。バスの運転が荒いので注意。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良くそこまで気をつける必要はなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
ソウルに持って行くお金は、大きな買い物をしないのであれば5万円あれば十分だと思われる。プログラム代はプログラム前に、宿泊費はプログラム後に振り込む。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
提出書類をしっかりと提出するともらえる。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
昼食は大学内のカフェテリアなどに、夕食はフィールドトリップ後に近くのレストランに、グループの人たちと一緒にいきいろいろなものを食べれた。20日間というとても長い時間を共有したので、他の参加者ととても仲良くなることができた。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
東大・ソウル大、双方からTAが付いていて、しっかりとサポートしてくれるので安心。空港からのアクセスや寮の情報などをプログラム前にしっかりと提示してくれたので、とても生活しやすかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は学生カードをもらっていたのになぜかはいれなかった。食堂はいっぱいあり利用しやすかった。PCは自分のものを持参する必要があると思う。Wi-Fiも持参する方が良い。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
このプログラムで一番印象に残っているのは、ソウル大生や韓国の人々の日本に対する関心の高さである。日本語を学ぶ学生が多く、日本の漫画やアニメが好きな人々もかなり多かった。それに対して、日本の学生の韓国への関心はそれほど高くないように思える。このプログラムは、日本人の学生にとって韓国を知るとても良い機会になると思う。また、韓国から日本がどのように見られているのか、客観的な視点で日本を見直す機会にもなると思う。たった20日では目に見えるような成長は得られないかもしれないが、様々な先輩の話を聞くことができ、自分の考え方を見直すことができるので、成長のきっかけには確実になると思う。
②参加後の予定
自分はまだ一年なので、とりあえず希望の学部に進めるように大学での勉強に励みたい。今回のプログラムはとても面白く楽しかったので、今度は長期でソウルに交換留学をしてみたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

他のプログラムよりも長いぶん、学べることも多くソウル大生とかなり仲良くなれるので参加すればとても有意義な夏休みが過ごせると思う。韓国に関心のある人にはもちろんだが、関心のあまりない人も日本の隣国として知っておく必要があると思うので、とても意味のあるものになると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月4日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学生命科学研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	SNU-Utokyo joint summer program	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 通信 )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
ソウル大学
<b>参加した動機</b>
英語能力の向上、知見を広げることが目標でした。
<b>参加の準備</b>
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
なし
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
なし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
健康診断書類は可能な限り早く用意すべき
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
付帯海学
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
とくになし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
とくになし
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
変換プラグは必須
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
午前は講義、午後は講義に関連した施設や関係機関を訪問した。講義で得た知識を午後のフィールドトリップで実際に見たり体験したりできるので、授業を振り返ることができ、定着度が高かったと思う。
②学習・研究面でのアドバイス
とくになし
③語学面での苦勞・アドバイス等
ソウル大学の学生がかなり日本語が堪能なので特に困りませんでした。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
家賃は10泊で2万円弱。寮で2人部屋。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
多くの場面でカードが使えるのであまり現金はいらない。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
とくになし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
10万円くらい。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

7万円。JASSO

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は、韓国に住んでいる友人(プログラム外)と遊んだ

**派遣先大学の環境について**

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とくに困ることはなかった

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂、図書館の施設は充実している。

**プログラムを振り返って**

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本では、韓国での反日運動をよく報道されるが、それは一面的なものであることがわかった。日本と韓国の協力の必要性や可能性を感じることができた。

②参加後の予定

なし

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

おすすめのプログラムです。

**その他**

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年8月27日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	SNU-Utokyo 合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	<input checked="" type="checkbox"/>	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
ソウル大学は韓国では一番の大学です。
<b>参加した動機</b>
K-POPなどを通して韓国に興味があったので、アカデミックな視点で日韓について学びたかった。アジアの優秀な学生と議論してみたかった。
<b>参加の準備</b>
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
なるべく早めに手続きをすませて期限に遅れることがないようにすることが大切だと思います。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは必要なかったです。
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
健康診断書を手に入れるのに思った以上に時間がかかることがあるようです。保健センターの予約など、余裕を持って行くと良いでしょう。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
学校の保険のみ加入しました。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし

## ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語がそれなりにできないとレクチャーや議論についていけず、得られるものが少なくなると思いますが、得意ではなくても積極的になりさえすればソウル大生とは意思疎通が図れると思います。韓国語はこのプログラムを機に勉強してみるのも面白いと思います。

## ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

韓国についてあまり知らないとレクチャーやフィールドワークで少しおいてけぼりになってしまうことがあるので、少し韓国の歴史や政治を事前に学んでいけば良かったと思いました。

## 学習・研究について

### ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

東京ラウンドとソウルラウンドがそれぞれ10日ずつあり、午前は講義、午後はフィールドワークでした。特に予習は必要ありませんでしたが、特に韓国ラウンドの講義は、事前にpptも見られるので予習した方が理解し易しと思います。講義とフィールドワークの関連性があるときは、よりテーマを深く学ぶことができたと思います。

### ②学習・研究面でのアドバイス

韓国の政治や経済、社会について勉強しておくの良いと思います。

### ③語学面での苦勞・アドバイス等

英語力を伸ばしたいのであれば、積極的に英語で話しかけると良いと思います。(韓国の学生は日本語が上手な人が多いので、日本語で会話することが多くなってしまいかもかもしれません) 韓国語があまり身につかなかったのは残念でした。

## 生活について

### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ソウル大学の二人一部屋の寮でした。綺麗ですし、近くにカフェやコンビニがあるので便利でした。ただ、Wi-Fiがないので、自分でSIMカードやポケットWi-Fiを用意する必要があります。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

韓国ではクレジットカードがどこでも使えるので、たくさん現金を用意しなくても大丈夫でした。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安も良く、特に問題はありませんでした。

### ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券は3万円くらいでした。プログラム費用3万円、保険が5000円くらいでした。食費・娯楽費を合わせると4.5万円使ったと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから7万円いただけると思います。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

毎日のように遊びました。ソウル大生が親切で様々なところに遊びに行きました。

### 派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

困ったことがあればTAさんに相談すると良いと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は、ソウル大学から入館カードをいただいたのですが、なぜかそれが使えませんでした。ソウル大生と一緒にであれば入ることができると思います。食堂はたくさんあります。

### プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

他のサマプロと違い、日本ラウンドがあるので韓国のことだけでなく日本のことも改めて学ぶことができました。政治、経済、社会など様々なテーマで日韓を学べることができ、フィールドワークもとても面白かったです。ソウル大学の学生とたくさんお話してきましたし、20日間もあるのもとても親しくなることができたのも本当に良かったです。

②参加後の予定

これからも海外プログラムに参加しようと考えています。長期留学も視野に入れていきます。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ソウル大とのサマプロは東京ラウンドがあり、日数も長くソウル大生との中が深まります。プログラム後は毎日一緒に遊んでいました。また、政治、経済、社会など様々なことについて学ぶことができ、フィールドワークも充実しています。興味がある人は是非参加することをお勧めします。

### その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月6日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	ソウル大学-東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル国立大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
韓国国内で有数の名だたる総合大学。多岐にわたる専攻分野があり多様性に富む
<b>参加した動機</b>
歴史認識や在日韓国朝鮮人の問題が依然解決していない中で、現場の韓国人が日本についてどう考えているのか肌で感じたかった。少子高齢化やジェンダー、学歴社会など何らかの社会問題を共有している韓国について理解を深め、日本のケースの比較分析し、自国をも見つめなおしたかった。
<b>参加の準備</b>
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
提出書類の締め切り日に注意すること。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは申請していない
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
健康診断書や予防接種証明書は英文発行だと通常よりも時間を要するので早めに準備しておくべき。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
付帯海学保険

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特になし

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

韓国滞在中のポケットWi-FiもしくはSIMカードのレンタル・購入

### 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

日韓関係に関する問題(在日韓国朝鮮人など)、日本と韓国それぞれが抱える政治・経済・社会問題、北朝鮮問題などに関する講義を受け、各講義のテーマに関連する場所へのフィールドトリップを行った。他にも、グループディスカッションやプレゼンテーションの機会が何度かあり、日本人同士では直面することのない価値観の違い・それに起因する意見の相違を経験することができ、非常に刺激的であった。

②学習・研究面でのアドバイス

日韓関係もしくは韓国の社会に関する事前知識が少しでもある方が、プログラム中の講義が理解しやすくなり、より建設的な議論が可能になると思う。事前に読書等で韓国に関する疑問を見つけ、実際に質問してみると新たな気づきが得られるので強くお勧めする。

③語学面での苦労・アドバイス等

時にお互いの意思が正確迅速に伝わらない時があり、言語の壁を感じたが、それでも熱意をもって相手に伝えようとするのが大事。あきらめたらそのぶん関係を深めることができなくなってしまう。

### 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ソウル大の学生寮に宿泊した。ネット環境は万全ではないので事前準備は必須。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

韓国は日本よりもクレジットカード社会なのでカードがある方が望ましいが、短期間の滞在なら現金のみの持参でも対処できると思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

普段そこまで大量にからいものを食べない日本人にとっては、スパイスが多く含まれる韓国料理は胃に負担がかかりうるので、無理せず様子をみながら過ごすことが大事。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

12万程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

7万円(JASSO)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

観光

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

TAや教授と学生との距離が近くいろいろな会話を楽しめる

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

生活に必要な施設はキャンパス内にそろっている

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラム参加前に自分が日本で培ったり小耳にはさんだ韓国人のイメージについて、それが本当なのかたくさん質問した。日本と韓国の違いを発見しようとした。様々な場面において何故韓国人が日本人と同じように行動したり異なる行動をとったりするのか考えてみた。結果、韓国人は日本人と似て非なるものであるという結論に自分なりに達した。

**②参加後の予定**

今後も継続して海外の学生と交流・議論できるようなプログラムに積極的に参加しようと思う

**③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

失敗を恐れずに、自分なりの疑問や意見を持ち、それをぶつけ、気づきを得てください。そして必ず内省の時間をとり、挑戦を続けてください。失敗したり、周囲の人に迷惑をかけた、場違いな行動をとってしまう時もあるかもしれませんが、でもそのたびに自分自身を見つめなおし成長しようと謙虚に努力する姿勢を忘れないでください。そうすれば周りの友人、先輩、先生方はちゃんと自分の失敗を許し、成長途中の自分を見守ってくれると思います。学生のうちだからこそいろんな失敗をして、将来の糧としてください。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

特定のものはない

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**

**The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form  
(for programs from a week to 3 months)**

Date: 09/07/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Economics	Year at the time of Study Abroad	M1
Program Attended:	UT-SNU Joint Summer Program	Host University:	SNU
Occupation after graduation (intended):			
<input type="checkbox"/>	1. Research		
<input type="checkbox"/>	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
<input type="checkbox"/>	3. Civil Service		
<input type="checkbox"/>	4. NPO		
<input checked="" type="checkbox"/>	5. Private sector (Type of industry: )		
<input type="checkbox"/>	6. Entrepreneurship		
<input type="checkbox"/>	7. Others ( )		

**Outline of the receiving institution overseas**

SNU is the best university in South Korea.

**Reason why you decided to participate**

I am interested in East Asia culture and relations between major East Asia countries including China, Japan and Korea. As a Chinese student studying in Japan, I know plenty of things about China and Japan. However, I know few things about Korea. That is the prime reason that I applied for the program.

**Preparation for the program**

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Nothing special.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

If you have Japanese nationality, you do not need a visa.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

Please take part in the Physical Checkup in Spring otherwise the Centre for Health in Tokyo would refuse to issue the Certificate of Health for you. Vaccine records are also required. Please prepare for those things earlier for it is time-consuming.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

Insurance is compulsory. Nothing special about that.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)

Nothing special.

(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)

It is better to learn Hangul and some basic conversations before. In Seoul, sometimes it is not very convenient if you cannot read at all.

(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.

It is better to buy a prepaid sim-card or rent a wifi in airport.

### **Information on the academic/research program**

(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)

Basically lectures are held in the morning and visits are arranged in the afternoon. The lectures are in English. Most of the professors' English is good but sometimes the accent is heavy. No previews or reviews are needed. There is a presentation at the end of Tokyo Round. Groupwork is needed.

(2) Advice on aspects of academic/research work

Nothing special.

(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.

It would be better to acquire basic Korean language conversation skills.

### **Aspects of life**

(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)

We live in the dorm of SNU. Two people share a room. The facilities are good. Washing machines and drying machines are free and high-efficient. There are also microwaves and fridges.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))

This year Seoul is not that hot and humid compared to Tokyo. Credit card can be used nearly everywhere. Subway system is less developed compared to Tokyo. You need to take a bus from dorm to the main gate of SNU.

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)

Seoul is a very safe place to live. It is better to take some necessary drugs from Japan. There are lots of drinking parties. So it is better to balance the drinking parties and the study.

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)

My flights cost nearly 40000 yen. The program fee is 30000 yen. The dorm fee is 17034 yen. Food and Entertainment cost nearly 70000 yen.

(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)

Jasso gives 70000 yen as a scholarship. No need to apply for it separately.

(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)

There are lots of drinking parties. In weekends, I visited major sightseeings in Seoul including the Seoul Tower, Myeongdong and many palaces. Seoul is an amazing city in terms of the combination of traditional architecture and modern skyscrapers. Korean food is also a must-try.

#### **Environment of the receiving institution**

(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)

Teaching assistants are kind and friendly.

(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)

Libraries are quite modern compared to those in UT. Food of cafeteria within the campus is cheap.

#### **Looking back over the program**

(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad

This program makes me experience Korea by myself. In both China and Japan, I often know Korea through newspapers and TV programs. But sometimes the news is biased. I saw the real Korea this time. It is impressive to construct a country from debris to a developed economy. There must be something we can learn from the development. Also, I experience the North Korea crisis by myself. It is hard to understand the real threat if you do not live in Seoul where military forces from North can theoretically enter within an hour. I do hope the current crisis could be solved peacefully.

(2) Your plans having studied abroad

I will focus on job hunting and writing the thesis in my M2.

(3) Any messages or advice for future participants

It is important and unforgettable to experience the real South Korea and the real crisis happening in the peninsula on your own.

**Miscellaneous**

(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas

The official website of SNU is useful since it provides the access to the campus.

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.

Nothing special.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 5日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: コンサルティングファーム)		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ソウル市に本部を置く国立大学である。本部キャンパスは広大な敷地を有し、Faculty也多岐にわたる。建物はほとんどが1990年以降に建てられたものであり、目新しい印象を受ける。

参加した動機

大学4年間を通して留学経験がなく、それを今になって残念に思っていたところであった。来年に就職も控えていたため留学を選択することのできなかつた自分にとって、夏休み1か月を海外交流に使える当プログラムは非常に魅力的であった。  
また、元来日韓関係には関心があり、自分の足で韓国を訪れ、韓国の人々と触れ合いたいという思いもあった。貧弱な創造に基づいた視線でなく、しっかりとした経験に基づいた視座で日韓関係を見直してみたかったのである。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特にすることは無い。私の場合はTOEIC・TOEFL未受験の状態ですり込んで申請は通ってしまった。ただ今後人気が出るとすればその通りでもない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請は必要ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断はソウル大のドミトリから要求される。値段の関係から東大内の健康診断を受けるべきである。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

案内に従って加入すればよい。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

担当教員に印鑑をもらえに行けばよい。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

韓国語の基本のキの字くらいできているとよりソウル大学生と交流しやすいと思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

SIMカードについては事前に調べ現地で安いものを手に入れるとよい。また土日などに行く場所を決めておくのも吉。

## 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

事前に資料は共有されるので、そこでの分からない単語等を調べることを予習としていた。復習はとくには行っていない。  
午前が授業、午後がフィールドトリップが基本のスタイルである。東京ラウンドでは在日韓国人についての講義が、韓国ラウンドでは日韓関係についての講義が印象的であった。在日韓国人に関しては自分の知らないことも多く、また日韓関係について語る韓国ラウンドの教授は正直日本にかなり批判的で、むしろ興味深かった。また東京ラウンドの新大久保訪問など、かなり偏った意見を持つ人々と出会うことになるが、東大生もソウル大生も冷静に分析でき、未来志向の日韓関係を望む空気は共有しており、そういった話題をソウル大生と話したのも印象深い。

②学習・研究面でのアドバイス

かなり偏った人にも出会うだろうが、ソウル大生の意見は非常に東大生のそれに近いものである。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ソウル大生はとにかく英語に堪能で、人によっては日本語も流暢である。語学に関しては引け目を感じざるを得なかった。英語のリスニング・スピーキングはある程度訓練しておきたい。

## 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

二人一部屋のドミトリーでの宿泊となる。部屋は綺麗だが、ベッドが固かったり電球が切れていたりする。場所は自力ではわかりづらいので人に聞きつつたどり着けた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

暑い湿度はそこまで高くなく、日本より過ごしやすい、というのが例年のソウルのようなのだが、今年は非常に雨の日が多かった。ただ日本より過ごしやすいのは間違いない。  
近くにはコンビニ、学食もあり、生活に困ることはあまりなく、ソウル市外へのアクセスも悪いわけではない。会計は交通カードへのチャージ以外すべてクレジットカードで行っていた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特にはない。治安は悪くない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費 4万円 プログラム参加費用 3万円 宿泊費 2万円 交通費(タクシー利用複数回含む) 5千円 食費・娯楽費 5万円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOより7万円。このプログラムの公式の奨学金である。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
プログラム後や週末はソウル大の学生とご飯に行ったり観光したりしていた。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
学内wifiになにかと制限がある、図書館での使える入り口が限られるなど、良いわけではない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は非常に素晴らしい。学食も普通においしい。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
同世代のソウル大の学生と密に交流できることがこのプログラム最大の意義であるように感じる。なにかと困難のともなう日韓関係であるが、同じ時代を生きるソウル大生と似通った価値観を持っていることを確認したことは、両国の未来に可能性を感じるものであった。自分にとっては海外の違うコンテキストをもつ人々とここまで密に交流したのは初めてであり、異文化交流の素晴らしさというのを知れたのは非常に良い経験になった。またプログラムを通して留学生活の雰囲気をつかめたというのは自分にとって大きかった。将来社会人留学するときのイメージづくりにもつながった。
②参加後の予定
卒業論文の準備を進めつつ、就職後に備えて着々とハード面のスキルを身に付けていくつもりである。また卒業前にはアジア周遊旅行をするつもりだが、その時に韓国にもよりたいなと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

夏休み丸一か月暇であるけど何かしたいという学生にオススメである。自分自身、サークルも引退し、インターンやバイトしかやることがない状態での参加で、人と違うことができ非常に有意義であった。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方はなんだかんだ便利である。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月6日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	SNU-UT Summer Joint Program	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

韓国のソウル・冠岳区にある国立大学。韓国一の名門大学と言われている。旧京城帝国大学で、歴史的に東大とのつながりも深い。

参加した動機

第一に、韓国語の使用機会を得るため。  
 第二に、ソウル大学の学生、また東大の韓国研究専攻以外の東大の学生が日韓間の様々なトピックについてどのような考えを持っているのか関心があったため。  
 第三に、午後に行われるフィールドトリップで通常訪れることができないような機関・施設を訪問できるため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

短期のプログラムであるため特に煩雑な手続きはなかった。プログラム中は午前も午後も予定が詰まっており、手続きや健康診断をしに行く時間がないため余裕をもって準備をしたほうがよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

入寮のために済ませておくべき予防接種の数が多いので早めに健康診断を受け、未接種のワクチンを確認したほうがよい。ワクチンの取り寄せなどで案外時間がかかる。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定の保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

日常会話レベルの韓国語が可能であったため韓国人学生とは主に韓国語で会話をした。しかし自分以外の日本人学生を含めた場やオフィシャルな場では英語での会話が基本であったため自分の英語力のなさを痛感することが多かった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

大抵のものは韓国で揃うが変換プラグは必須。(個人的にはwifiも)

**学習・研究について**

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前に座学の講義を受け、午後にフィールドトリップという形式。このプログラムに参加することでソウル大生は単位になるらしいが東大生は単位にならないので、そのことが授業への参加姿勢にも表れていたように思う。特にソウルラウンド後半では、疲れからか午前中の講義を欠席・遅刻する日本人学生が多かった。講義は概説的な内容であるが韓国の地域・政党名など基礎知識がなければ理解しづらい部分も多かったので、事前に配布される資料を予習しておくのがよい。

②学習・研究面でのアドバイス

上に記したように、事前の予習(予備知識)があるかないかで授業の理解度が大きく変わる。授業そのものも有意義であったが授業後の昼食時間や移動時間で授業内容について韓国人学生と意見を交わしたことがとてもタメになった。良い機会なので授業に関連するトピックについてソウル大生に話を振ってみるとよいと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

英語より韓国語で話すほうが楽で、英語でうまく伝えられないことがあると韓国語に逃げてしまったのがよくなかった。発表の場でも英語が流暢な韓国人学生に頼りっぱなしになってはいけない、と自分の反省を踏まえてアドバイスしたい。

**生活について**

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

指定の大学寮。ソウル大の寮の中で一番新しく綺麗な寮らしい。コンビニや食堂、バス停も近く便利だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候が不安定な上、雨が多い季節なため体調管理には注意したほうが良い。日本より乾燥しているため喉が痛くなり辛かった。韓国はカード社会なので現金をあまり用意していなかったがプログラム中は他の学生と食事→割り勘で支払うことが多かったため想定より多くの現金が必要になった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
体を休める日を意識的に作ったほうがよい。せっかく韓国に来ているからという気持ちもあるだろうが、毎日予定がぎっしり詰まっているので一度体調を崩してしまうとなかなか治らない。私自身ソウルラウンドの後半ひいた風邪が長引き少し大変だった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券は四万円前後。物価は日本より高くなってしまっているのではないかと思う。食費は比較的安いものの、毎日外食をし二次会までするとそれなりの支出になる。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金を受給した。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末はプログラム外の韓国人の友人と過ごした。寮でゆっくり休む人、同じグループの友人たちと出かける人、様々な過ごし方をしていたようである。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
TAの方が学生の体調などために気にしてくださり有難かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
施設は充実しているようだが、時間がなく利用する機会がなかった。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
語学力に関して危機感を持てたのが一番の成果だった。拙くても時間がかかっても発言してみることが大切。このプログラムでうまく話せなかった恥ずかしさやもどかしさが帰国後の学習意欲に結びついている。勿論最初から問題なく意思疎通できるのが一番だが、プログラムに参加しないことにはこのような気持ちになることすらなかったと思うので必要な経験だったと思う。 修士課程に在籍していると他研究室の学生、学部生と関わる機会があまりない。プログラムに参加した日韓両国の学生と親睦を深める中でソウル大の大学院生の生活、東大の他研究科の様子などを知ることができ刺激になった。
②参加後の予定
修士論文執筆に向け研究を進め、修了後は博士課程進学予定。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
短期ではあるが密度が濃くとても充実した夏を過ごせる。迷っている方には参加をお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月13日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	SNU-UT Summer Program	派遣先大学:	ソウル国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
ソウル国立大学
<b>参加した動機</b>
語学力の向上、海外の大学生との国際問題に関する議論
<b>参加の準備</b>
①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
期限内に要求された書類を正しい場所を送るだけで大丈夫です。
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
必要なし
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
Mumpsのみ大学内で受けました。
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
指定された海外保険に加入しました。
⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英検、TOEFL

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

ソウルラウンドのみ参加しました。午前中は授業、午後はフィールドトリップを行いました。

②学習・研究面でのアドバイス

日韓関係の現状や歴史をあらかじめ日本で勉強してからプログラムに参加すると楽しみが増えると思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

特になし

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ソウル大学内にある寮で二人部屋です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事もおいしいし、交通網も発達していて利便性が高いです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特になし

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

奨学金を差し引いて10万円ぐらいです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金を利用しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

特になし

**派遣先大学の環境について**

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

満足でした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

満足でした。

**プログラムを振り返って**

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

現地の学生とのふれあいを通じて韓国文化への理解が一層高まります。またソウル大学の学生は優秀な方が多く、非常に高度で楽しい議論を展開することができました。

②参加後の予定

学力向上

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日韓関係について様々な視点を持てるようになるプログラムです。ソウル大学の学生とも仲良くなれるのでぜひ参加してみてください。

**その他**

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし